

# 阪神・淡路大震災はどのように語られたのか

## —パソコン通信における会話—

川上 善郎

### はじめに

阪神・淡路大震災（以下阪神大震災と略す）を情報通信の立場から捉らえるとき、関東大震災と際立った違いは、災害の発生後に多様な情報通信メディアが活躍したという点にある。各種の情報メディアが阪神大震災時にどのように利用されたかについて、既存のマスメディア全般については小田貞夫（1996）、中村功・廣井脩<sup>1</sup>（1997）に、また新しいメディア全般については平塚千尋（1996）に詳しく述べられている。メディア別には、中村功・廣井脩（1996）が携帯電話について、また川上善郎・田村和人・田畑暁生・福田充（1995）が、パソコン通信、インターネットについて詳しく報告を行っている。

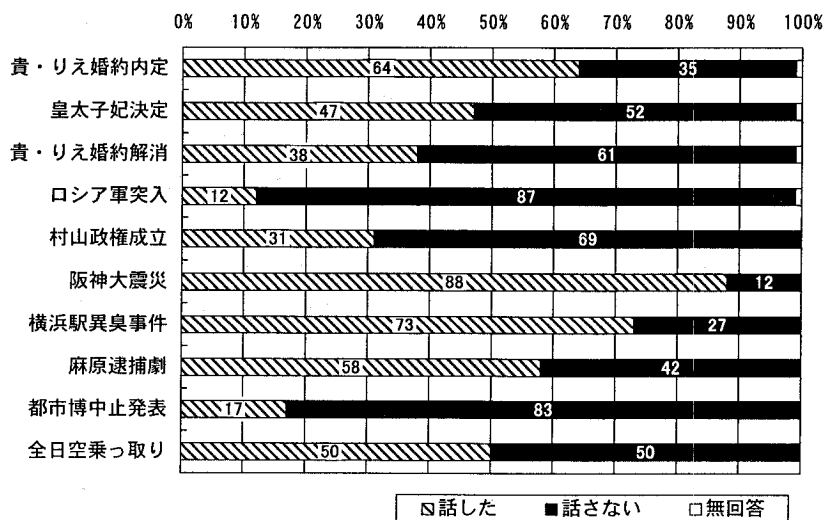
平塚（1996）によれば、震災後に行われた各種の調査結果を通して「今回の大震災の特徴は、放送、新聞のマスメディアについて、口コミ・掲示板などの原初的なメディアの比重が30%前後と高かった」という。またパソコン通信などのニューメディアについて各種の調査結果をレビューした上で、「このように調査結果を数字で見るとニューメディアは情報メディアとしてほとんど役割を担っていないが、新聞や雑誌ではこれらが大きく扱われ、その活躍ぶりが喧伝された。関係者、関係の機関紙、業界紙も当然のことながら高い自己評価をしている」（平塚、1996）と述べ、震災と新しく登場したメディアの関係について盛んに話題にされた割には、実際の役に立っていない点を指摘する。

災害時のメディアが、実際の役に立ったかどうかを測る視点のひとつに次のようなものがある。災害時において伝えられるべき、地震情報、行動指示情報、被害情報、救護・救援情報、安否情報、ライフライン情報、生活情報、復興情

報が、災害の適切な時期に、必要としている対象者に伝えられることである(小田、1996)。川上ら(1995)の研究は、このような情報伝達のプロセスにパソコン通信がどのように関わっていったのかを、震災後1ヶ月間のパソコン通信ネットワークの実態を実証的に分析したものであった。阪神大震災の発生とともに大手の商用パソコン通信のニフティサーブは、震災発生当日の午後1時に地震情報コーナーを開設し、翌18日には地震情報コーナーの無料化を実施した。スタート時のメニューは、1. 案内、2. 地震関連ニュース、3. 地震関連掲示板(被害・交通情報)、4. 地震関連掲示板(教えてください)の4項目であったが、時間単位で次々と拡大していった。川上ら(1995)の研究は、これら地震コーナーの展開の実態の分析とそこで中心的な役割を果たした電子掲示板での発言を実証的に分析したものであった。その結論として、「あたらしく登場したパソコン通信が、阪神・淡路大震災で被災者の方々の役に立ったのかという間に真正面から役に立ったと答えるのは難しい。しかし、震災時に社会が作り上げようとしたトータルな情報システムにパソコン通信に代表される新しいメディアは積極的に関わりをもち、全体的に調和性の高い、そしてきめの細かいメディア環境=情報環境の枠組みづくりに参加したのは確かである。そのシステムが成功したかどうかは、まだまだ検証の過程にある。今の時点で確実に言えることは、パソコン通信は、これまでの震災とメディアの関係に一石を投じたこと、そして今後の震災とメディアを考える上でなくてはならないメディアとしての位置を確保した」(川上善郎、1996)と述べる。上記の被災者への情報提供という視点からは、必ずしもパソコン通信は役に立ったとはいえないかもしれないが、震災をめぐる社会全体の情報システムということを考えるときに、パソコン通信は一定の役割を果たしたのではないかというのである。事実、パソコン通信とインターネットの情報は、災害の周辺の人々、とりわけボランティア活動を志向する人々にとって役に立ったことが指摘されている(山根一真、1995; Internet Surfer 編集部、1995)。

川上ら(1995)の研究が、震災時にパソコン通信などが災害情報をどのように伝えたのか、どのように利用されたかについての研究であるとするならば、本研究は、災害それ自身にとっては、より周辺的な部分に光をあてるものである。阪神大震災を、災害の周辺にいた私たちがどのように語ったのかを分析しようとするものである。私たちは、パーソナルコミュニケーションを通して阪

図-1 この話をあなたから話しましたか



神大震災について語り合った。図-1は、阪神大震災のニュースを初めて聞いた人々がそのニュースを周囲の人々に自ら伝えた人々の割合を示したものである(川上善郎、1997)。他の大きな事件<sup>1)</sup>と比較しても、いかに阪神大震災が人々の間で積極的に語られたかのひとつの証拠でもある。このようなパーソナルコミュニケーションは、阪神大震災についての情報を伝播するという役割とは別に、阪神大震災についての社会的リアリティを獲得するために大きな役割を果たしている。阪神大震災という未曾有の事件に接触して、私たちはマスコミや各種のメディアが伝える情報に依存すると同時に、周囲の人々と阪神大震災について共に語ることによって阪神大震災についてあいまいなイメージを少しでも明確なものにしようとし、阪神大震災をどのように捉らえたらよいのかを模索していったに違いない。

本研究の目的は、阪神大震災のような社会的にクリティカルな出来事が、パーソナルなコミュニケーションにおいて、どのように語られたかを実証的に検証することにある。阪神大震災の発生後数週間にわたって、私たちはこの出来事についてしばしば語り合ったに違いない。新聞やテレビが阪神大震災の情報で埋め尽くされたように、私たちの会話の中でも阪神大震災の話題が非常に多く語られたに違いない。

災害時のパーソナルコミュニケーションについて、流言という形での研究は、関東大震災について中島陽一郎（1995）、今回の災害について、News Work 取材チーム（1995）、津金澤聡廣（1996）などがあげられる。しかし、私たちが、日常生活の中で、このようなクリティカルな出来事についてどのように語ったかについての実証的な研究は皆無であるといっていよいよだろう。その理由は、現実社会の中の会話を組織的にサンプリングして分析することが現実的には不可能だからである。

そこで本研究では、現実社会での会話の代わりに商用ネットワークのニフティサーブを対象として、その中で阪神大震災に関する話題が、どの程度語られていたかを分析するものである。ニフティサーブには、フォーラムと呼ばれる会議室システムがある。電子会議室は、特定の話題について多数の参加者が自由に議論する場である。このような会議室がいくつか集まってフォーラムを形成する。ニフティサーブには、このようなフォーラムが多数存在し、会員はそれらのフォーラムのいくつかに登録をし、そこでの議論に参加したり、議論を読んだりするのである。本研究は、パソコン通信の基本的な機能のひとつであるこのフォーラムでの発言を対象としたものである。パソコン通信などのCMC (Computer Mediated Communication) の特徴は、川上善郎・川浦康至・池田謙一・古川良治（1993）によれば、CMCによる会話が不特定多数の人々の目にふれる点にある。電子会議室での会話は、不特定多数に読まれることを前提に行われている。いわば私たちの日常の会話が公開されているようなものである。そのような意味で、これらの会話は、日常の会話と質的に異なるものがあると考えられるだろう（川上善郎、2001a）。

阪神大震災の年を境にして、パソコン通信はピークを迎え、同時にインターネットの爆発的な普及へとつながっていく。パソコン通信にしる、インターネットにしる、CMC上の会話が不特定多数に公開されるという性質は変わらない。本研究は、インターネット時代の「会話」のあり方を探るための基礎資料を提供するものになるだろう。

## 方 法

調査期間：調査対象とした期間は、阪神大震災発生当日の1995年1月17日から

1月31日までの15日間とした。データ収集を行ったのは、1995年2月5日から2月9日の5日間であった。

調査対象：ニフティサーブ内の全フォーラムに開設されている会議室の調査期間内の全発言を対象とした。調査は、調査対象フォーラムに入り、会議室の一覧を表示させる。表-1は、「山の展望と地図のフォーラム (FYAMAP)」のケースを示したものである。第1列目から、会議室「番号」、その番号の会議室に現在記録されている「発言」数、( )内は「未読」数、もっとも新しい書き込みの月日を示す「最新」、そして最後に「会議室名」である。このフォーラムは16の会議室があるが、これらのうち4つの会議室は会議室の境界をしめす表示用であり、実際には用いられていない。このフォーラムの場合は実際に開設されている会議室は12室である。ついで、コマンドラインから、1月17日から31日までの書き込みのタイトルを表示させるために、次の検索キーを投入する。SEAは、検索するためのコマンドであり、ここでは、95年の1月17日から1月31日の発言を指定した。

表-1 フォーラム内の会議室一覧 (例示)

＜山の展望と地図のフォーラム＞				FYAMAP
番号	発言	(未読)	最新	会議室名
01	25	( 25)	01/27	《フォーラムからのお知らせ (閲覧専用)》
02	0	( 0)		-----△-----
03	642	(642)	02/08	アルプス広場：自己紹介やお喋り、四方山話
04	308	(308)	02/08	Q & Aの広場：パソコン・通信その他何でも
05	0	( 0)		-----●-----
06	846	(846)	02/07	展望の広場：山や街から展望、紀行、情報
07	12	( 12)	02/06	◆臨時◆展望百名山—FYAMAP選定—
09	561	(561)	02/08	地図の広場：地図のことなら何でもOK!
10	48	( 48)	02/08	JMCの広場：地図センターホット情報!
12	338	(338)	02/08	メディア広場：写真・TV・画像・書籍紹介
14	720	(720)	02/08	ソフトの広場：山・地図ソフト&情報交換等
15	0	( 0)		-----○-----
16	33	( 33)	02/06	◆臨時◆戦後50年—山と地図—回顧と展望
17	126	(126)	01/25	イベント広場：オフミ・催し・展示会の案内
18	0	( 0)		-----▽-----
19	72	( 72)	01/01	運営の広場：意見・要望・企画をどうぞ

## SEA DATE: 950117-950131

上記フォーラムにおける検索結果の一部を、表-2に示す。まず会議室番号が表示され、期間内に発言がある場合にヒット数がしめされる。ヒットした発言については、まず発言番号、発言者のID、発言月日、発言時間が表示される。ついでその発言が他の発言へ関連付けられている場合には、元の発言番号が表示される。またこの欄が空白の発言は、新規発言であることを示す。また、次の列は、この発言に関連付けられた発言数を示す。たとえば2とかかかれている場合には、この発言に2つの発言が関連付けられていることを示す。最後に発言のタイトルが表示される。各フォーラムについて、表-1と表-2のような結果をハードディスクにセーブし以後の分析に用いた。

調査対象フォーラム：調査時点でニフティサーバ内に公開されていたフォーラムは、366フォーラムであった。これらのうち実際に調査したフォーラムは、356フォーラムであった。調査不能であったフォーラム10のうち、8フォーラム<sup>2)</sup>は入会にあたって厳重なメール審査を要し、2フォーラム<sup>3)</sup>はデータのみから構成されていたので調査対象からはずした。

調査対象会議室：各フォーラムには、テーマごとに会議室が開かれている。調査対象としたフォーラムの中の会議室は5349室であった。ただし表-1に存在したように表示用のための会議室が103室あり、これらは分析から除外した。また、36会議室（31フォーラム）は、次の理由で除外した。ひとつは、調査時点ですでに1月17日から31日の記録が消えてしまった会議室が14室、調査期間の一部だけが消えてしまったもの22室あった<sup>4)</sup>。以上の会議室を除外した356フォーラム、5210会議室を分析の対象とした。

分析データの作成：まず、表-2に示される会議室単位のデータに、各発言につけられたタイトルから内容を地震関連の話題か、地震以外の話題かを判断し基礎データとした。本来は発言本文から判断すべきであったが、全発言に目を通すことは事実上不可能なためにタイトルのみから内容を判断した。表-2に示される各発言の情報を、フォーラム単位、会議室単位、および個人単位に集計したファイルを作成した。

表-2 検索結果の例示

---

MES:01....hit:2				
000023	SDI00790	01/22	11:45	0 兵庫県南部地震救援関連情報(転載)
000025	SDI00790	01/27	1:40	0 震災ボランティアフォーラム開設
MES:02....hit:0				
MES:03....hit:58				
000568	GHH01737	01/17	6:09	00558 2 RE:山溪空撮百名山(2)
000569	SDI00790	01/17	18:21	0 兵庫県南部地震お見舞い申し上げます 山尾
000570	GFC02251	01/19	7:50	0 大惨事に心が痛みます。
000571	HAF00302	01/19	19:03	00560 0 わかたさんの遺作展、中止
000572	GCC01721	01/20	6:43	2 地震】お見舞い申し上げます
000573	MHB02511	01/20	21:29	1 兵庫県南部地震に心痛みます
000574	MHB02511	01/20	23:13	00568 2 RE^2)山溪空撮百名山(2)
000575	GAG01120	01/21	10:49	0 兵庫南部地震お見舞い申し上げます 青蛙
000576	QZA00420	01/21	11:01	3 初めてお便りします
000577	SDI00790	01/21	15:26	00573 0 RE:兵庫県南部地震に心痛みます 山尾
000578	SDI00790	01/21	15:26	00576 0 RE:初めてお便りします 山尾
000579	GBC00760	01/21	21:12	00572 0 RE:地震】お見舞い申し上げます
000580	JCD01204	01/21	23:36	00576 0 中村さん、ようこそ(^) DAN
000581	GAG00361	01/21	23:39	00574 1 RE:RE^2)山溪空撮百名山(2)
000582	GHM01737	01/22	4:34	00567 0 RE^2:山溪の空撮写真(1月号)。立山)
000583	GHH01737	01/22	4:34	00574 0 RE^3:山溪空撮百名山(2)
000584	GFF00533	01/22	18:00	00568 0 RE:山溪空撮百名山(2)
000585	GFF00533	01/22	18:00	00562 1 RE:山溪空撮百名山(2)のおまけ(^_^)
000586	GFF00533	01/22	18:01	00576 0 RE:初めてお便りします
000587	MHB02511	01/22	21:42	00585 1 RE:山溪空撮百名山(2)のおまけ(^_^)
000588	GCC01721	01/22	22:31	1 本】災害救援の文化を創る

---

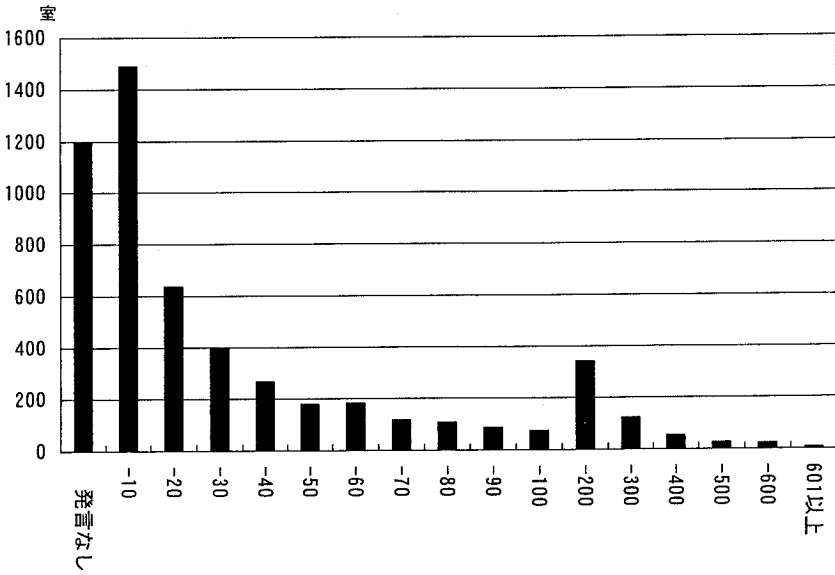
以下 略

---

A. 地震発生日から地震関連発言数の推移を集計するために、フォーラム単位に、17日から31日までの日ごとの発言総数、同様に17日から31日までの地震関連の発言数のデータを作成した。あわせて、会議室単位に発言数、および地震関連発言数のファイルを作成した。

B. さらに、個人単位の発言を分析するために、個人 ID 別に、発言している会議室数、期間中の総発言数、地震関連の発言数のファイルを作成した。

図-2 会議室の発言数



## 結果と考察

まず、分析の基礎単位となる会議室における発言の実態から述べる。調査対象となった会議室はすでに述べたように5,210会議室であった。これらの会議室に書き込まれた発言総数は、208,842発言であった。1会議室あたり平均40.0発言であった。調査期間内の発言数別会議室の分布を図-2に示す。この期間中に発言のなかった会議室21.0%、1-9発言26.9%、10-99発言40.9%、100発言以上11.2%と会議室によって発言数に大きな開きがある。発言なしや発言数10以下の会議室が多い。その理由のひとつは、多くのフォーラムは、スタッフからの連絡掲示用の会議室や特別の目的のための会議室が用意されていることがあげられる。それらにはほとんど新しい書き込みがなされないのである。また会議室のテーマによっては発言のしにくい会議室もあり、本結果が示すように発言数の少ない会議室がかなりの割合を占めていることを示している。しかし、これらの会議室の集合体であるフォーラム単位で発言数の分布をみると、全体としては極端に発言数の少ないフォーラムが多いというわけではない。



図-3 フォーラム単位の発言数の分布

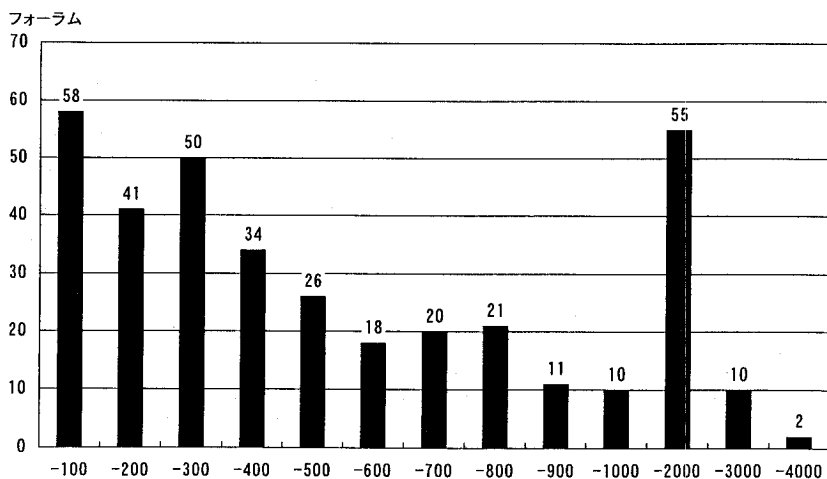


表-3 フォーラム内での発言数と地震関連発言の推移

	話題の総計	地震の話題	その他話題	地震の割合
17日(火)	16,342	4,064	12,278	25%
18日(水)	13,652	3,975	9,677	29%
19日(木)	11,748	3,086	8,662	26%
20日(金)	11,614	2,570	9,044	22%
21日(土)	12,690	2,345	10,345	18%
22日(日)	14,618	2,115	12,503	14%
23日(月)	13,774	1,710	12,064	12%
24日(火)	14,710	1,512	13,198	10%
25日(水)	12,860	1,207	11,653	9%
26日(木)	13,820	1,183	12,637	9%
27日(金)	13,595	1,169	12,426	9%
28日(土)	13,305	832	12,473	6%
29日(日)	15,061	834	14,227	6%
30日(月)	15,022	722	14,300	5%
31日(火)	15,631	571	15,060	4%
合計	208,442	27,895	180,547	13%

図-4 地震関連話題の割合の推移

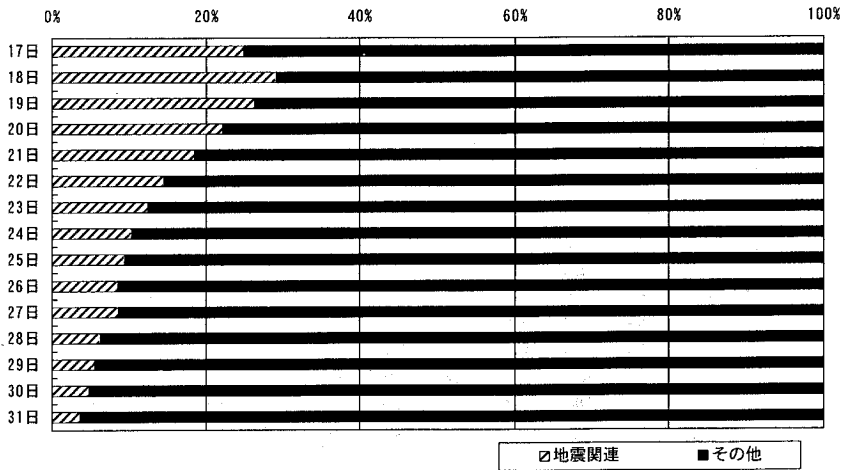


図-5 地震の話題の割合別のフォーラム分布

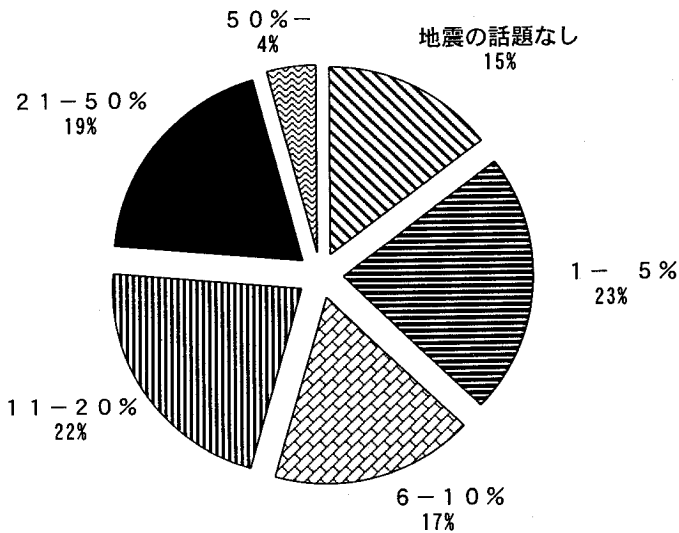


図-3 に示すように100以下のフォーラムも多いものの、全体としてみると極端に発言の少ない部分に集中しているというわけではない。

次に日別の総発言数の推移と地震発言の推移を表-3 に示す。実数ベースで、

発言総数をみると17日は16000台と多いが、翌18日から21日までは減少し、その後回復していることが読み取れる。また、地震関連の話題については、17日、18日はほぼ4000近くの発言があり、23日には2000発言を切り、その後も徐々に減少していく。図-4は、地震関連話題の全体に占める割合の推移を明示したものである。17日25%、18日には29%にも達していることがわかる。震災当日とその翌日の2日間は、フォーラム内の発言の4件に1件以上は地震関連の話題が書き込まれたことを示している。その後も24日までは10%以上を占めていたことがわかる。

ニフティ内の全フォーラムでの地震関連発言の割合を示したが、すでに述べたようにフォーラムには多様な存在があり、どのフォーラムも同じように地震関連の話題が語られたとは考えにくい。そこで、フォーラム単位で地震の話題がどの程度語られたのかを分析する。図-5は、地震の話題の割合別にフォーラムの分布を示したものである。地震の話題がなかったフォーラムは52 (15%)、5%以下81 (23%)、10%以下61 (17%)と地震の話題が少ないフォーラムも多い。その一方で、356のフォーラムのうち、調査期間を通して51%以上を地震の話題が占めていたものが15フォーラム (4%)、そのうち、もっとも割合の高かったフォーラムでは実に期間内の全発言の84%を占めていた。また、21-50%を占めるフォーラムも69 (19%)もあった。このようにフォーラムによって地震関連の話題の現れ方は大きく異なるのである。

このようなフォーラムによる地震関連の発言数の差異を詳しく分析するために、発言数の時間的な推移について因子分析を行った。各フォーラムについての17日から31日までの毎日の地震関連の発言数と、その他の毎日の発言数を変数として因子分析を行った。因子分析結果を表-4に示す。因子1は、フォーラムの一般的な活性度を示す因子であり、この因子で高いフォーラムは、阪神大震災と関係なく普段から発言数の多い会議室であることを示す (活性度指標)。第二因子は、24日以降の地震発言に高い負荷量を示しており、調査期間の後半においても、地震関連の話題の活性度が高かったことを示す (地震話題の持続性指標)。第三因子は、逆に17日-23日の一週間に活性化したフォーラムを示す (初期話題の指標)。これらの3因子から、8類型をもとめ代表的なフォーラムの内容を分析したところ以下のような結論が得られた。

タイプ1は、フォーラムの活性度は高いが、地震の話題は低い。しかし、期

表-4 回転後の因子負荷量（直交回転）バリマックス法

変数名	因子1	因子2	因子3
1)17日地震	0.262	0.255	0.791
2)18日地震	0.264	0.293	0.816
3)19日地震	0.266	0.374	0.797
4)20日地震	0.195	0.429	0.716
5)21日地震	0.165	0.517	0.719
6)22日地震	0.107	0.464	0.661
7)23日地震	0.152	0.583	0.676
8)24日地震	0.114	0.681	0.541
9)25日地震	0.157	0.729	0.389
10)26日地震	0.140	0.864	0.213
11)27日地震	0.107	0.770	0.011
12)28日地震	0.092	0.858	0.322
13)29日地震	0.085	0.835	0.331
41)30日地震	0.112	0.798	0.387
15)31日地震	0.065	0.717	0.351
16)17日話題	0.854	0.236	0.179
17)18日話題	0.889	0.236	0.022
18)19日話題	0.904	0.131	0.066
19)20日話題	0.908	0.074	0.002
20)21日話題	0.938	0.069	0.062
21)22日話題	0.929	0.045	0.102
22)23日話題	0.941	0.059	0.103
23)24日話題	0.952	0.087	0.129
24)25日話題	0.933	0.089	0.175
25)26日話題	0.944	0.085	0.129
26)27日話題	0.925	0.089	0.161
27)28日話題	0.931	0.024	0.198
28)29日話題	0.922	0.073	0.199
29)30日話題	0.925	0.095	0.164
30)31日話題	0.899	0.065	0.186
因子負荷量の2乗和	13.104	6.407	5.116
因子の寄与率 (%)	43.681	21.358	17.054
累積寄与率 (%)	43.681	65.039	82.093

間中一定の割合で震災関係の話題がでてきた。特定の会議室でのみ震災の話題が語られている。その他の会議室では語られていない。このタイプの代表的なフォーラムは、FMACUS<MACUS-JAPAN マックユーザーフォーラム>、FDIVING<ダイビングフォーラム>、FYHPPC<YHP PC Users' Forum>、FGALRAY<FGAL・RAY ユーザーズ>などであった。ワープロ/パソコン/周辺機器やソフトウェアのフォーラム群である。

タイプ2は、フォーラムの活性度は高く、震災関連の話題も盛んになされた。震災1週間に盛んに語られている。時間の経過とともに急速に語られなくなる。特設会議室を開いているものもいくつかある。FLADY<レディースフォーラム>、FAQUA<アクアリウムフォーラム>、FSKIJO<スキー場情報フォーラム>、FTV<テレビフォーラム>、FFISH<釣フォーラム>などであり、スポーツと生活/ライフスタイルのフォーラム群である。

タイプ3は、活性度はとても高いが、震災関係の話題は皆無に近い。フォーラムの基本機能に忠実なグループである。FBATL<プロレスフォーラム>、CGAMEP<パソコンゲームフォーラム>、FMACBG<Mac Beginner's Forum>、FIGO<囲碁フォーラム>などゲーム関連のフォーラムに多くみられた。

タイプ4は、活性度はとても高いが、震災関係の話題は初期にのみ多く、あっという間に消費されてしまっている。FBUDO<武道フォーラム>、FSFXF<特撮フォーラム>、FBEAT<音楽フォーラム-ジャズ・ポピュラー>、FCLA<音楽フォーラム・クラシック>などであり、音楽/映画/放送関連のフォーラムであった。

タイプ5は、活性度が低く、震災関連の話題も特に大きく取り上げられたわけではない。しかし、一定の割合でこの期間中話題となったグループである。FIBMFEEL<未来電子環境研究所>FINFOD<情報デザインフォーラム>、FDNT<親知らずフォーラム>、FPSY<心理学フォーラム>などであり、特徴はない。

タイプ6は、普段の活性度は低いですが、すべて特設会議室を開いていた。地震の話題の割合も高く、時間の経過によってもあまり減少しない。FJON<ジャーナル・オンライン・ネットワーク>、FCAI<CAIフォーラム>、FCIVIL<土木フォーラム>、FHANDE<障害者フォーラム イベント>、FSCI<サイエ

ンスフォーラム>、FARCD<建築フォーラム・デザイン館>などであり、震災と関連の深いフォーラム群であった。

タイプ7は、もともと活力のないフォーラムである。地震関連の話題は全くないが、それ以前にフォーラムの話題がない。FSVISION<ソフトヴィジョンフォーラム>、FTRIAL<体験版ソフトウェアフォーラム>、FCYRIX<Cyrix Forum>、FHITI<HITACHI Information Forum>などであり、ワープロ/パソコン/周辺機器とソフトウェアのフォーラム群に属する。

タイプ8は、基本的に活力がないが、地震関連の話題により、この期間の発言はやや増えた。しかし、話題の消費とともに急速に発言が減少する。地震の話題の占める割合は高い。FCB<CB フォーラム>、FTC<TC フォーラム>、FQC<品質管理フォーラム>などであった。

## 個人別の特徴

次に、個人別の結果について述べる。期間中の総発言者数は、29,056人であった。同一人が2つ以上のIDを所有し、両方のIDで発言している可能性があるが、判別不能であるので、ID単位で分析を行った。これら発言者のうち72.7%は1会議室のみの発言であり、2会議室は18.4%、3会議室以上は8.9%であった。また、同一IDによる発言数は、平均値で7.17発言と多いが、メディアンでは、3.0発言と少ない。要するに1発言32.1%、2発言16.6%と少数発言者が圧倒的に多いことを示している。これらの発言者のうち、地震関連の話題で発言したものは8,541人である。全発言者の29.4%であった。地震に関してのみ発言者7.3%、両方の発言をしたもの22.1%であった。また、個人別の発言数を地震についてみると、1発言が48.7%を占める。2発言までで全体の67%を占めている。

## 特設会議室について

各フォーラムに開かれている会議室は、それぞれのテーマが用意されており、基本的にはそのテーマにそった話題が議論されることになっている。ふだんは、テーマと直接関連のない話題はシスオペやボードオペなどによってコントロー

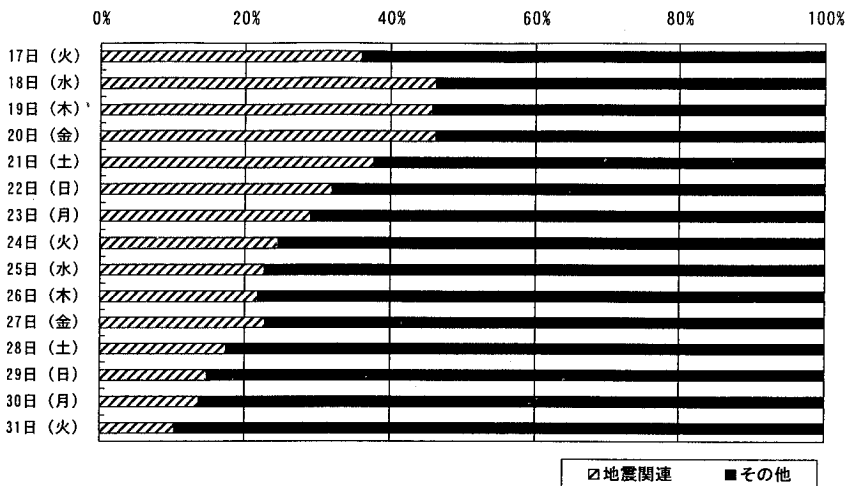
表-5 特設会議室を用意したフォーラム一覧

フォーラム名	会議室名
ビジネスマンフォーラム 1	関西地区勉強会・オブ・梅田小町
FLIC 資格試験フォーラム	【臨時】兵庫県南部地震／健在証明、各種情報
品質管理フォーラム	特別会議室若山さん激励メッセージ
リスクマネジメント & FP フォーラム	【Disaster】災害情報伝言板〔特設〕
建築フォーラム・デザイン館	◆防災建築・防災都市◆緊急会議室
土木フォーラム	【阪神大震災】
英会話フォーラム	教育復興ネットワーク
サイエンスフォーラム	■緊急【防災と救援】
文章工房フォーラム	【臨時】兵庫県南部地震関連専用
情報デザインフォーラム	神戸市役所、西宮市役所からのメッセージ
CAI フォーラム	★臨時★阪神大震災関連(3111～)
化学の広場	【臨時】地震対策を考える(安全対策一般も)
ディフェンス・レビュー・フォーラム	兵庫県南部地震関連集約会議室・【臨時】
障害児教育フォーラム	【臨時2/28迄】災害と養護施設の現状と対応
ジャーナル・オンライン・ネットワーク	特集・神戸大地震
教育実践フォーラム	【緊急連絡室】兵庫県南部地震関連の連絡室
生涯学習フォーラム	【臨時】阪神大震災／社会教育施設関係
エアロフォーラム・航空	〔特設〕兵庫県南部地震関係
ベースボールフォーラム(総合館)	■兵庫県南部地震緊急特別会議室■
キャンピング&アウトドアライフ	*臨時会議室*兵庫県南部地震関係
シクロツーリズムフォーラム	ポンポコリン*【兵庫県南部地震緊急取次室】
ダイビングフォーラム	☆特設☆兵庫県南部地震に関する情報交換
釣フォーラム	====兵庫県南部地震関係臨時会議室====
競馬フォーラム	<緊急設置>兵庫県南部地震特設会議室
スキー場情報フォーラム	《特設会議室》兵庫県南部地震関連情報抜粋
TENNIS Forum/TENNIS NETWORK Japan	◆「兵庫県南部地震」情報室◆
スポーツの広場・ウェルネスフォーラム	【臨時会議室】阪神大震災救援会議室
音楽フォーラム・クラシック	【臨時】地震情報・消息の部屋
テレビフォーラム	【ザ・ニュース】<地震報道関連も>
輸入車フォーラム	【特設】兵庫県南部地震連絡用
観光フォーラム	◆臨時◆兵庫県南部地震関連
ボイス オブ ケンタウロス(バイク)	BAR・FULLMOON【阪神大震災関連情報】
鉄道フォーラム情報館 (INFORMATION)	【臨】1/17阪神大震災被害を検証する
ネイチャー&バードフォーラム	▲臨時会議室 地震情報会議室
全国生協フォーラム	★臨時★兵庫県南部地震お見舞い情報 BOX
DIY フォーラム	DIY で命を守ろう！阪神大震災の教訓
園芸フォーラム	《地震に関する会議室》安否、支援等の情報
メロウ・フォーラム	臨時>兵庫県南部地震情報コーナー

表-5 特設会議室を用意したフォーラム一覧

フォーラム名	会議室名
ペット総合テーマフォーラム	大丈夫ですか?《兵庫県南部地震情報専用》
バックラス・酒フォーラム	●緊急●神戸メンバーを助けて!
全国ふるさと交流フォーラム	「1/17・阪神大震災情報」...特設
障害者フォーラム イベント	【兵庫県南部地震】情報交換&お見舞い 【防災】障害者と災害
<にふてい保健所>	【特設会議室】(利用案内は#1)
将棋&チェスフォーラム	＝臨時＝ 兵庫県南部地震情報
EPSON DOS/V Users' Forum	阪神大震災関連専用会議室
EPSON PC Users' Forum	期間限定 関西方面会員の状況(1/31迄)
シャープ書院フォーラム	【FSHOIN 企画会議室】地震関連よろず小屋
FGAL・ユーザーズ	特設会議室:兵庫県南部地震関連情報
全国 BBS ユーザーズフォーラム	【兵庫県南部地震 BBS 情報】転載フリー
CB フォーラム	【緊急】兵庫県南部地震対応会議室
FHAM 総合館	【臨時会議室】兵庫県南部地震 問合せ等
ハレルヤ・ハレルヤ	特別会議室  キリスト教界地震情報
MISTY LAND	【予知・予言】予知と予言について
THE 町内会	緊急開催 『大地震』

図-6 特設会議室のあるフォーラムでの発言





ルされ、会議室の話題と関連がない発言は、発言を制限されたり、あるいは、適切な会議室に移動されることも多い。

ところが、阪神大震災の発生後、震災関連話題が会議室単位で自然発生的に多数書き込まれた。17日以降数日の間大震災関連の話題はどのフォーラムにおいても大きなウェイトを占めたことはすでに紹介した。そこで多くのフォーラムで、阪神大震災に関連した話題だけを集約した特設会議室を開くケースがみられた。それらの発言を一箇所に集中させることは、各会議室の本来の機能を維持するためにも、また震災関連という共通の話題を一箇所に集めることで情報的な価値を高めることにもつながるという判断が働いたものと考えられる。表-5 に、特設会議室を開いたフォーラム名と特設会議室名の一覧を示す。調査対象となった356フォーラムのうち54フォーラムが特設会議室を開いた。しかし、それらの全てが新規に開設されたものではない。完全に新規に開設されたものは47フォーラムであった。既存の会議室を臨時に変更したものは8フォーラムであった。特設会議室の開始時期は、17日38%、18日15%と半数は震災発生後2日以内に設置されている。25日以降に開設されたものも9室ある。

図-6 は、特設会議室を持つフォーラムにおける地震関連発言の割合の推移を示す。すでに述べた図-4 と比較してみると、特設会議室を用意したフォーラムでは、地震関連発言の割合はきわめて高くなっていることがうかがえる。

## おわりに

最後に、本研究が対象としたパソコン通信のその後について述べておきたい。ニフティサーブは、1987年4月に3千人の会員からスタートした。1993年に50万に達し、本研究が行われた1995年4月には100万を突破した。阪神大震災をきっかけに、パソコン通信に対する社会的な評価は急速に高まったのである。またこの年はインターネットが初めて社会的に認知された年でもあった。翌1996年1月には150万、同年9月には会員数は200万に達した。このように、阪神大震災を契機に会員数を倍増させ、パソコン通信全盛期を迎えたのである。しかし、同時にこの時期は、パソコン通信終焉の始まりでもあった。社会は、パソコン通信によるコミュニケーションからインターネットを通じたコミュニケーションへと急激に変貌した。ニフティサーブもパソコン通信事業を維持し

つつも、インターネットプロバイダへと業態を変容させ、現在では会員数300万人を越えるにいたっている。

パソコン通信は、独立したコンピュータシステムであり、そのシステムに登録した会員間の多様なコミュニケーションをサポートするものであった。会員の間で閉じたシステムを形成していた。これに対して、インターネットは、このような独立したコンピュータネットワーク同士を結びつけるネットワークのネットワークともいべきものであり、インターネット利用によって全世界のコンピュータ利用者間のコミュニケーションをサポートすることになった。また、パソコン通信が文字テキストを中心にしたコミュニケーションシステムであったのに対して、WWW (World Wide Web) は、マルチメディアの利用が可能であり、文字はもちろんのこと画像、音声、動画などによる表現を許すものであり、パソコン通信からインターネットのWWWへの移行は必然的なものであった。現在の時点(2000年12月)で、パソコン通信はインターネットの一部として存在しているが、研究当時(1995年1月)は、まったく異なったコミュニケーション状況にあった。そのような意味では、本研究はコンピュータ・コミュニケーション史の研究資料の一部になってしまったと言ってもよいだろう。

しかし、本研究が、インターネット中心のコミュニケーション状況の中でいささかでも意義があるとするならば次の2点においてである。ひとつは、本研究が、コンピュータを介在させたコミュニケーションシステム、とりわけ不特定多数との会話をサポートするシステムに関する研究であるという点である。インターネットで現在主流となっているWWW上のコミュニケーションもパソコン通信と同様に不特定多数との会話を支えるシステムという意味で共通性を持っている。そのような意味で本研究での知見は、WWWを中心とするコミュニケーション研究に適用可能であるだろう<sup>5)</sup>。

また、本研究は、阪神大震災という未曾有な社会的な出来事に対して、社会的にどのように語られたかについて実証的なデータを提供したという意味で画期的なものである。パソコン通信のフォーラムという限定された場であったとしても、人々がどのように、またどの程度、社会的にクリティカルな話題を取り上げるのかを数量的に捉える研究は、これまでは不可能であったといつてよい。図-4に示したように、1月18日には全会話量の30%近くを占めていたという事実の提起だけでも十分に研究意義があったと思う。

阪神大震災というような社会的にクリティカルな事態に遭遇したとき、社会は、その災害に対処するためのコミュニケーションを活性化し、災害による被害を最小限にし、またその復旧のために社会全体の組織化のために、いわば非常事態宣言ともいうべきものを発令する。阪神大震災後の新聞の紙面、テレビ放送を想起していただきたい。震災報道一色に塗りつぶされてしまう。また、阪神大震災後に公表された多様な研究も、災害情報の役割という視点からのものである。あくまでも災害にかかわりのある人々にとって災害情報システムがどうあるべきか、あるべきであったかという議論である。

しかし、そのような公式的なコミュニケーションとは別に、阪神大震災のような社会的にクリティカルな事態に遭遇したときに、マスコミ以上に、周辺にいた私たちがまた異常に饒舌であったという事実を示したかったのである。このような饒舌さこそが、社会的に共有される価値観の変更や、いわゆる世論というものの形成につながったのではないかと思う。本研究は、会話の内容についてはまったく表面的にしか扱っていない。実際に阪神大震災がどのように語られたのか、そしてそれらの会話がどのように価値観や意見形成にかかわったのかを明らかにすることを、今後の研究課題としたい。

#### 注

- 1) 図-1 に示されたニュースは、貴花田・宮沢りえ婚約ニュース（1992年10月26日）、皇太子妃決定ニュース（1993年1月6日）、宮沢りえ・貴ノ花婚約解消ニュース（1993年1月27日）、ロシア軍最高会議ビル攻撃ニュース（1993年10月4日）、社会党村山内閣誕生ニュース（1994年6月29日）、阪神大震災ニュース（1995年1月17日）、横浜駅異臭事件ニュース（1995年4月19日）、麻原逮捕ニュース（1995年5月16日）、都市博中止ニュース（1995年5月31日）、全日空機乗っ取り（1995年6月21日）である。詳しくは川上（1997）参照
- 2) 金融プロフェッショナルフォーラム、マーケティングフォーラム、バイオフォーラム、コンピュータ・サロンフォーラム、人間と性のフォーラム、症例研究会、ドラッグインフォメーション、アドミラルシステムフォーラムであった。フォーラムのテーマに関連した職業に従事している者に入会を限定している場合が多かった。
- 3) FGAL・AV ギャラリー2、CG コンテスト会場の2フォーラムであった。
- 4) 当時のシステムでは、最新1000発言までが閲覧可能である。1000発言を越えると自動的に古いものから消えていくシステムである。特に重要な会議室については、データライブラリーに保存されている。しかし、今回調査不能になった会議室の多

くは、チャットがわりに会議室を利用しているものが大部分であり、一日に数百件の書き込みがなされる。その多くが他愛ない発言で、一行だけの文章などから構成されている。これらの会議室では、1月17日以降に震災関連の発言も多くなされたと推測されるが、他の大部分の会議室と発言の様式に大きな差が見られるので、調査不能ということもあったが、調査対象から除外した。

- 5) 川上 (2001b) に WWW を用いた Web コミュニケーションと狭義の CMC の違いについての記述がある。

### 参 考 文 献

- 平塚千尋, 1996 「マルチメディア時代の災害情報」放送学研究46, 75-106
- Internet Surfer 編集部, 1995 「阪神大震災：その時、インターネットはどう動いたか?」『Internet Surfer』Special Edition '95 pp. 133-150
- 川上善郎、川浦康至、池田謙一、古川良治, 1993 「電子ネットワークの社会心理」誠信書房
- 川上善郎, 1996 「阪神・淡路大震災とパソコン通信」『阪神・淡路大震災誌』朝日新聞社
- 川上善郎, 1997 「うわさが走る」サイエンス社
- 川上善郎編著, 2001a 「情報行動の社会心理学」北大路出版 (印刷中)
- 川上善郎, 2001b 「ウェブコミュニケーションのもたらすもの」『日本人の情報行動2000』東大出版会 (印刷中)
- 川上善郎、田村和人、田畑暁生、福田充, 1995 「阪神大震災とコンピュータネットワーク～インターネット、ニフティサーブ等における震災情報の内容と構造～」『文教大学情報学部情報研究』第16号、pp. 29-54
- 中島陽一郎, 1995 「関東大震災」雄山閣
- 中村功、廣井脩, 1996 「兵庫県南部地震時の携帯電話の役割と問題点」東京大学社会情報研究所調査研究紀要 7, 1-25
- 中村功、廣井脩, 1997 「災害時の安否情報とメディアミックス」東京大学社会情報研究所調査研究紀要10, 155-180
- News Work 取材チーム, 1995 「流言兵庫」碩文社
- 日本民間放送連盟音声委員会, 1995 「阪神大震災とラジオ」報告書
- 小田貞夫, 1996 「災害情報の伝達と放送メディアの役割」放送学研究46, pp. 33-55
- 津金澤聡廣, 1996 「阪神大震災における流言飛語とメディア」放送学研究46, pp. 107-132
- 山根一真, 1995 「マルチメディアが救った情報『空白』の危機」文芸春秋3月、162-167